

医師が製薬会社で働くということ。

ーこれから面接を受けようと考えている医師のためのガイドー

医師は患者の健康と幸福に貢献する。しかし、貢献できる場所は病院だけではありません。大学病院や大きな医療施設で働いていると知らぬ間に病院以外の場所で働くことは自分のプライドを傷つけると思っていないですか？医療現場から離れ、直接患者と接することから遠くなることに不安や失望を感じていませんか？知らぬ間に医師として働ける職場に自分で勝手にランクづけをしていませんか？

あなたがもし製薬会社で働きたいと考えるならこのような疑問にきちんと答えを出して面接を受けたほうがいいでしょう。また、勘違いして欲しくないのは製薬会社は病院に疲れた医師の吹き溜まりでもなく、高給でお気楽気分で働ける場所でもないということです。製薬会社は適切な患者さんに適切な医薬を提供することで、患者さんの健康と幸福に貢献しています。製薬会社の医師は社内で最も患者さんに近い位置で医学的な見地から多くの患者さんの健康に関わっています。それは、新しい薬の開発であったり、市販後の薬剤の安全性や有効性に関わる仕事であったりします。ただ、実際の仕事の内容は面接の際に説明されても実感としてなかなか理解しにくいかと思います。開発の仕事では治験に関わる人が多いと思います。安全性の部署では副作用についての調査、報告業務が一般的です。また、メディカルアフェアーズといって市販後の製品の臨床研究や情報提供に関わる部署で働くことも少なくありません。また、マーケティング関係の仕事に関わることもあります。あなたがどのような仕事がいいのかわからない時にはなるべく大きな会社で仕事のABCを経験するのもいいかもしれません。そこで、少なくとも数年間経験をつんで、その後自分にあった職種や会社を探してさらに経験をつむのもいいのではないのでしょうか？もちろん、あなたが最初の会社に十分満足していればそんなことを考える必要はないかもしれませんが、製薬会社で採用される一般的な条件として①臨床経験数年以上、特に自分の得意分野をもっていることがふさわしい。②研究経験があること（英文論文があり、留学経験があればなお良い）。③外資系では英語が話せ、理解できることは必須（最低 TOEIC 700-800 点程度あったほうがよい）。④医師ということで特別扱いされないことを当たり前と感じられること。⑤さらに持っているとう利なのは医学博士、MBA などの資格。それから、できれば治験等の臨床研究を大学病院等の在籍時にきちんと経験しておけば面接で有利になります。製薬会社への入社を考えているなら、なるべくビジネス書、特に戦略やマネジメント、リーダーシップなどの書物を事前に読んでおけば入社後にもとても役立つはずです。そして、大切なのは製薬会社を紹介してくれる会社の人との関係です。もし、あなたが信頼できるコンサルタントと出会ったならば、就職後もきっといろいろな相談にのってくれるはずです。長くよい関係を持ち続けることがあなたの将来にもきっと役立つでしょう。